

# 分断が進む世界における日本の役割

宮本 雄二

2022年12月1日

1

## 1. 現行国際秩序は人類の叡智の結晶

2

## (1) 平和と発展を可能とした戦後国際秩序 = 現行国際秩序

- ① 第一次世界大戦後の失敗と第二次世界大戦の悲惨な体験を総括した人類の叡智  
(それまでの基本は「ジャングルの掟」)。
- ② ルーズベルト大統領の貢献大。  
アメリカの理念を大きく反映  
(経済の自由主義、政治の自由民主主義を基本)。  
国連憲章が、その典型。

3

## (2) 平和と発展を担う仕組みの構築

- ① 平和は国連が担うことを想定。  
東西冷戦で機能せず、同盟を基礎とする多国間のシステムが代替。  
国連の平和維持活動等は評価。
- ② 発展は、世銀・IMF (国際通貨基金)、WTO  
(世界貿易機構、前身はGATT) を通じ担保。

4

### (3) 東西冷戦構造の終焉と現行国際秩序の普遍化

- ① 国連の安全保障機能の一定の回復。
- ② 自由主義経済の隆盛と経済のグローバル化の完成。世界経済は未曾有の発展。
- ③ 世界の平和と発展を背後で支えたのはアメリカの「力」。

5

## 2. 現行国際秩序は深刻な挑戦に直面

6

## (1) 経済のグローバル化に対する挑戦

- ① 否定的評価の増大。
- ② 経済安全保障をもたらすデカップリング作用。  
⇒ 経済のロジックは、グローバル化を必要とする！

7

## (2) 世界平和に対する挑戦

- ① ロシアのウクライナ侵攻は現行国際秩序に対する重大な挑戦。
- ② 中国の台頭のもたらすもの。  
「冷戦」の復活は、現行国際秩序の大きな挫折。

8

### 3. 中国の台頭は現行国際秩序に何をもたらすのか？

9

(1) 中国は変化、変革のプロセスの真ただ中にある！

- ① 中国の決め打ちは不可（M.ピルズベリー『China 2049-世界覇権100年戦略』）。  
中国は、これからも変化するという想定に立つべし。
- ② 長い歴史を持つ中国の大地に西洋から移入した社会主義の実現という壮大な実験のプロセスにある。
- ③ 中国革命を成功させた毛沢東思想の限界を鄧小平理論が克服し、中国の発展を実現した鄧小平理論の限界を「習近平思想」が克服しようとしている。

10

## (2) 中国は現行国際秩序の擁護者であり破壊者ではない！

① 中国の今日の隆盛と国際社会での地位の向上は、現行国際秩序の下で実現。最大の受益国の一つ。破壊する利益も必要もない。

② それ故に中国は、現行国際秩序を前提として、その改善と強化を、中国に有利な形で進めていくという自然な結論に到達。

11

習近平総書記は中国共産党第20回党大会における政治報告において、そのような中国の立場と考え方を表明。

すなわち、国際政治秩序に関しては、国連を中心とする国際システム、国際法を基礎とする国際秩序および国連憲章の趣旨と原則を基礎とする国際関係の基本ルールを護持。

同時に、中国の価値観や提案を取り入れることで、秩序自体の民主化と公正化を実現することを要求。

国際経済秩序に関しては、開放型の国際経済をつくり、経済のグローバル化を堅持し、貿易投資の自由化に進むべきことを説き、保護主義や単独主義、デカップリングに反対。

12

(3) 中国に改めるべきことが多々あることも事実。

- ① 中国の考えを国際社会、特に西側（日米欧）が理解できる言葉とロジックで説明すべし。
- ② 中国の表明された立場（言葉）と現場での対応（行動）が結びついていないと見られており、そのギャップを埋める努力をすべし。
- ③ 中国と近隣諸国をはじめとする国際社会、特に西側との関係悪化の最大の要因が軍事力の急速すぎる増強。それを踏まえた「戦狼外交」。

13

#### 4. 現行国際秩序の護持と強化のために日本がなすべきこと

14

- (1) **21世紀、現行国際秩序護持の必要性はさらに増大。**
- (2) 日本も現行国際秩序の最大の受益国の1つ。  
**世界のため、アジアのため、そして自分自身のために、その護持に奔走すべし。**
- (3) **日中戦略的互惠関係は、この現行国際秩序を前提。**  
現行国際秩序の護持が、日中の共同の使命。  
積極的に協力すべし。
- (4) **日中関係を全体として把握し、全体の利益を最大化すべし**（軍事安全保障に日中関係全体を乗っ取らせてはならない）。